

めぐみ

2024年
2月号

学校法人 聖公会北関東学園
認定こども園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

幼稚園時代、そして母、職員になって…

補助教諭 西島 共世



私は埼玉のだ田舎出身で、山奥の周りは田んぼと畑に囲まれた幼稚園に3年間通いました。私の幼稚園の記憶は、びくびく緊張していたことがほとんどです。お誕生日会ではきちんと座れているクラスから教室に戻りますが、一番最後になると担任の先生からすごく怒られました。お遊戯会や運動会の前はよく「謎の熱が出た」と母から聞かされます。おそらく、ちゃんとやらなきゃ先生に怒られるというプレッシャーからくる熱だったと思います。友だちと遊んだり、楽しかった思い出もあるのですが、びくびく過ごしていた記憶の方が今でも強く残っています。

時は過ぎ、母となり「自分の子はのびのび園生活を送って欲しい!」と思い、3人目の出産もあったため、長男2歳半ごろから幼稚園探しをスタートしました。当時、言葉がゆっくりで指示が通りにくく療育に通っていた長男。そのことを事前に伝えると、「うちは無理です」と見学を断られた園もありました。見学に行けても、場所見知りでパニック大号泣の長男。つられて当時1歳の娘も大泣き。お腹には次男。園に入れず諦めて帰ったこともありました。

心も擦り減ったころ、たまたま遊びに行った近所のつどいの広場で「初雁幼稚園に行ってみたら?」とその日初めて会ったママさんに教えてもらったのが、私が初雁幼稚園を知った瞬間でした。パニック大号泣を覚悟して見学へ。ところがそんな心配をよそに、ニコニコ門から入る長男。なんとそのまま先生と手をつないで、園の中も見学できたのです。そして当時のちゅうりっぷ組のお兄ちゃんに遊んでもらい大満足で帰宅。長男も「お兄ちゃんのいる所に行く!」と言い、「ここしかない」とすぐに入園を決めました。

それから早4年。今では職員としても幼稚園に携わらせていただきとても嬉しく思います。子どもたちの「やってみたい」「こうしたい」の想いを上手に汲み取り、保育をしてくださる先生方。少し肌寒くなってきた10月の終わり、「今日は外で給食が食べたい」ともも組からのリクエスト! いぎ椅子を持ちウッドデッキに出てみると、「日向がない。」そこでほんのり日の当たるすみれ組の前で「ちょっと寒いね。うふふ」と笑いながら給食の補助に入らせてもらった時間も宝物です。

初雁幼稚園を通して、自分自身の幼稚園時代の記憶も癒してもらっているなど感じます。わが子たちにはよく「お母さんも初雁幼稚園に行きたかった」と言っている私です(笑)

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ
「わかちあう」

今月のねがい

- 互いの存在を認め合い、信頼し合って生活を進めていこうとする
- 友だちと遊びを分かち合い、楽しさを共感する
- 寒さの中でも、神様が守られている命を知る

学年別のねがい

- (1歳) 思いを出し、伝わる喜びを感じる
- (2歳・満3歳) 楽しさを共感する
- (年少組) 友だちと心を通わせ、のびのびと過ごす
- (年中組) 自分たちで生活を進めていこうとする
- (年長組) お互いの力を信じ、自信を持って生活する

ひとこと

園庭の木々の蕾に、寒さの中でも神様によって命が守られていることを思います。冷たい北風の吹く中、元気に遊ぶ子どもたちも進級への思いを持ち始める時期となりました。年長組から年中組へウサギ鳥金魚当番の引継ぎが始まりました。もも組は時には年少組と一緒に過ごし、幼児部での生活に備えます。つくし組は少しずつバギーなしでの散歩に挑戦中。毎日の生活の中でも自ら気づいて行動する姿が見られるようになってきています。友だちとともに自信を持って園生活をめつめつ、2月も喜びを持って過ごしてほしいと願います。

今月の聖歌 「きみがすきだって」

今月の歌 「北風小僧の寒太郎」

★予定★

日	曜	行事などの予定
1	木	アルミ缶回収日
2	金	全体礼拝 ↓
3	土	就労家庭保育実施日 保育部保育参観・懇談会 1・2号入園準備会 しはん会お餅つき 職員会議
4	日	
5	月	年長組栄養教育 保育相談 (～9日まで)
6	火	環境検査②
7	水	教職員聖書研究
8	木	
9	金	全体礼拝
10	土	就労家庭保育実施日 保育実践協議会 ゴムチップ工事 (～11日まで)
11	日	建国記念の日
12	月	振替休日
13	火	年長参観・懇談・交流会
14	水	
15	木	年中参観・懇談・交流会 おはなしの会 (年中長組) 初雁中社会体験授業
16	金	全体礼拝 ↓
17	土	就労家庭保育実施日
18	日	
19	月	年少参観・懇談・交流会
20	火	
21	水	
22	木	年長 JR 川越駅見学
23	金	天皇誕生日
24	土	就労家庭保育実施日 幼稚園委員会⑤
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	2月生まれ誕生会 3号入園準備会
29	木	



チャプレンのページ



安息日

ある安息日にイエスは麦畑を通られた。弟子たちは空腹になったので、麦の穂を摘んで食べ始めた。

マタイによる福音書 第12章1節

旧約聖書の創世記を読むと、神様が世界を6日間かけて造られ、1日安息なさったとの記述があります。そして神様はこの1日を祝福し、神様に心を向ける日として定められました。こうして私たちの生活の基盤である一週間が定められるとともに、安息日が律法などに定められることになったのです。

そもそも安息日は、日常の生活や仕事を離れて神様に心を向ける日として定められていたのですが、ユダヤの国の指導者たちでファリサイ派と言われる律法主義の人たちはそれを正しく教えていなかったのです。

安息日は神様が安息したのだから人間は何であろうと仕事をしてはだめだ、靴の紐を解くのに両手を使ったら仕事になるので片手でしなければならない、料理は立派な仕事なので、安息日に食べる分はあらかじめ作っておかねばならない…

このような規則を300以上作って、安息日の規則にしてしまい、本来の神様に心を向けることはすっかりなくなっていたのです。

冒頭の聖句は、ある安息日はイエス様と弟子たちが麦畑を通った時の出来事です。空腹だった弟子たちは通った麦畑の穂を摘んで食べ始めました。これは日本では許されないことですが、ユダヤにおいては、出エジプトの時に旅人だった自分たちが40年にわたる旅を続けることができたのは、通った国々の人たちから多くの世話になったからであり、それを忘れないため、畑の所有者は旅人のため1割から2割は刈り取らずにおき、旅人はそれを自由に食べてよいことになっていたのです。

しかし、ファリサイ派の人たちは、弟子たちが手で揉んで麦を食べた、すなわち脱穀をした、脱穀は立派な労働で安息日にしてはならない…、と主張したのです。

本来の目的を見失い、人々を多くの規則で縛り上げていたファリサイ派の人々は、イエス様から反省を促されることになりました。大切なのは、あれはいけない、これもいけない…、ではなく、規則に含まれている本来の目的を正しく見出し、それを守る重要性を認識することだったのです。そしてファリサイ派から厳しい差別を受け、非難され続けてきたユダヤの人々は、イエス様の教えから、神様が無条件に自分たちを愛しておられるのを知ることができたのでした。

ファリサイ派の人たちはどうしたでしょう。反省して正しい人間になっていったのでしょうか。人々の指導者であれば当然そうすべきでした。しかし、彼らはイエス様へのねたみを増し、イエス様を十字架につけることになってしまうのです。自己中心的な思いは、人を生かすことができず、傷つけ、神様からも引き離してしまう、聖書の語るこの真実を、よく心に留めたいものです。

(鈴木 伸明)

クラスの窓



つくし組

昔ながらの遊びにも親しみました



年が明け、久々の登園でちょっぴりドキドキの様子ではありましたがニコニコの元気な笑顔を見せてくれました。年末休みに入る前に餅つきごっこ（ぺったんするとちゃんとお餅部分が弾むんですよ！）を楽しんだつくし組。「お正月の遊びを満喫しよう」ということで牛乳パックで作ったこま、ビニール袋で作った凧、そして福笑いは大好きなおかめ・ひょっとこ。こまはマジックで自由にかき、初めて使うマジックにルンルン♪完成するとすぐにマットの上へ移動し回したり落としてたり!?を楽しんでいました。凧は好きなシールをペタペタして「広場で凧あげしよう」と中央公民館へ。トコトコ走っているところにもも組が凧をもち合流。もも組のじょうずなお手本のおかげで「そうか、こうするんだ」と楽しみ方を伝授してもらいなんとも微笑ましい光景に。福笑いでは早くやってみたくて机の前でちょこん。目隠しは難しいのでしませんが、大好きなおかめ・ひょっとこの顔のパーツを真剣に並べて「できた」と繰り返し楽しむ姿が見られました。今時の遊びも楽しいですが、昔ながらの遊びにも親しみ楽しむ機会があるといいですよ😊

もも組

みんなの前で

去年の11月ごろから発表する時間を作りました。理由はブロックで作る物がじょうずになり、「また大作が作れるようになった」「作った物を飾っておきたい」「壊したくない」気持ちの子どもたち。ということで、朝の会の時に担任と子どもたちで話し合いをし、朝の会とおやつ前に「作った物を紹介してみよう」と決めました。

「発表するのは遊びの時間に作った物」としました。いざ、やってみると子どもたちは発表すること、それを聞くことをとても楽しみにし、作っている時から「〇〇ちゃんね(自分の名前)、ブロックでダンプトラック作るんだよ」と言いながら黙々と作っていました。そして朝の会を始める前に「発表する人いますか」と聞くと、6人が手を挙げて作った物の題名と子どもなりの説明をそれぞれがしてくれるようになりました。最初は下向きぎみでしたが、最近では緊張も和らぎ堂々と発表することができるようになってきました。作った物だけではなく、発見したことや自分の好きな絵本を紹介することもできるようになりました。そのおかげもあって、発表する時に先生からちょっとした質問をしても答えられるもも組です！もしかしたら家で「発表する人」と聞くと、子どもたちは嬉しそうに発表してくれるかもしれないです！

ちゅうりっぷ組

おすしブーム到来

「久しぶりの幼稚園だ」「友だちと久しぶりに遊べるぞ」といろいろなドキドキを胸に3学期が始まりました。クラス全員揃うのは久しぶりで毎日楽しく過ごしています。今クラスではおすしブームが来ています。きっかけは集まりで歌っていた「おすしのピクニック」です。最初は馴染みのネタが次々と出てくるスケッチブックシアターを見ているだけでしたが、「おすしのピクニック！」と声を合わせて言うのが楽しくて「もう一回やって」とみんなが大好きな歌になりました。遊びではプチプチや画用紙を使っておすしを作ったり、作るだけでは収まらず部屋で回転寿司屋さんを開いたり、毎日「いらっしやいませ」「へいお待ち」の声がにぎやかに響きます。1月のお誕生会はちゅうりっぷ組が出し物をするので、みんなでおすしに変身してお祝いしようとなり、ついに子どもたちまでおすしになりました。マグロ、タマゴ、サーモン、イクラ、ノリマキの中から一人ずつ好きなネタを選び自分たちで作りました。クラスで一つのことに向かって、しかもちゅうりっぷ組だけでというのは初めてです。きっと緊張もするし練習のようにはいかないこともあると思います。つい当日の姿に気持ちが向きがちですが、「自分たちの好きなことをみんなに見せてあげたい」と思った気持ちや、「友だちや先生と一緒にがんばろう」とする過程を大切にしたいなと思います。

たんぽぽ組

待ちに待った菓子屋横丁！

先日、菓子屋横丁へ行きました。冬休み中、ひとりの子が「行きたい」と話したことがきっかけで、みんなに提案すると大賛成！「すみれは100円だったから、たんぽぽは50円だね」と提案したのも子どもたちでした。

そのために、クラスでは「話を聞く」ことを頑張ってきました。車も人もたくさんいる外へ行く時には、先生や友だちの話を聞けると、安心して楽しめるね！と話をしてきました。「目を見て話を聞けてるね」「最後まで聞けたね」と良いところを認めていくと、負けじと頑張る子どもたち。今まで集まりに集中できるように席を固定していましたが、最近は自由席で各々が聞き方を意識しています。

待ちに待った当日。菓子屋横丁で好きなお菓子をひとつ買って、その後は川沿いを探検してきました。とても寒い日だったのですが、帰園後「疲れにも寒さにも勝った！」と、満足そうな顔を見て、子どもたちが保育生活を作り上げていく素晴らしさを感じた担任でした。自分たちの提案が実現する喜びを自信に変えて、またいろんなことに挑戦できるといいなと思います。

すみれ組

自分たちで決めて「明治なるほどファクトリー」へ

社会見学へ行きました。行き先は坂戸市の「明治なるほどファクトリー」です。2学期のうちに、いくつかの候補から相談し、自分たちで行き先を決めました。工場見学では、よく見てよく話を聞く子どもたち。疑問に思ったことを自ら質問する姿がたくさん見られました。

それからワカバウォークへ行き、お昼ご飯を食べました。一人ずつ注文します。「ハンバーガーセットください」「ありがとう」を伝え、こぼさないように気をつけてトレーを運びます。みんなで食べたハンバーガーはおいしかったね♪

たくさんのことを見て聞いて学んできた子どもたち。他クラスにも伝えようと一生懸命考え、毎日のように準備をしています。公共の場での過ごし方や、クラスでのルールを頭に入れ、そ

れを守ろうと声を掛け合う姿にも感心しました。その姿は今たくさん見られるようになっていきます。片付けの時間を知らせたり、時間までに支度を済ませて座ったりと、生活を自分たちで進められることが増えてきました。できたことには花丸をつけ、点数をつけています。目指せ100点！みんなで素敵な小学生になろうね☆



今月の聖書のおはなし



☆ 2月2日「ソロモン王物語」

列王記上3:1~28

力のあるダビデ王の次に王となったのは、知恵のあるソロモン王でした。ある日、二人の女性がソロモン王の元へやってきました。一人が「私とこの女性は3日違いで子どもを産みました。朝起きると一人の子どもが死んでいましたが、その子は私の子ではなく、あの女性が抱いているのが私の子なのです」と言いました。もう一人は、「違います。生きているのが私の子です」と言いました。ソロモン王は「生きている子を剣で二つに切って半分ずつ持って帰りなさい」と言いました。生きている子のお母さんは、「そんなことはおやめください。この子が元気に生きていれば十分なので、どうかこの子をもう一人の女性に渡してください」と言いました。すると、ソロモン王は「この子を生かしてこの女性に渡しなさい。あなた本当の母なのだ」と言いました。神様からいただいた知恵で、本当の母を見抜いたソロモン王でした。

☆ 2月9日「ダニエルと3人の若者」

ダニエル書3:1~30

バビロンの国の王様ネブカドネツアルに、イスラエル人のダニエルとシャドラク、メシャク、アベド・ネゴの4人の若者が仕えていました。王様は国に一つの金の像を作り、音楽が聞こえたらその像の前にひれ伏し拝むこと、また拝まない者は燃え盛る炉に投げ込まれると命令を出しました。しかし、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの3人は「神様は一人。王様の作った像に拝むことができない」と話すので王様は怒り、3人を縛り火の中に投げ込みました。しかし王様は、「4人が火の中を自由に歩いている。そして何の害も受けていない。それに4人目は神の子のような姿をしている」と驚きました。その3人の神様を信じる姿を見て「人間をこのように救うことのできる神は他にはいない」と心を改め3人をバビロン州の高い位につけました。

☆ 2月16日「ダニエルとライオン」

ダニエル書6:1~29

王国を継いだメディア人ダレイオスは大臣を置いていましたが、ダニエルは飛び抜けて優れていたため、その中でも高い位置につけました。このことをよく思わない他の大臣はダニエルを陥れようと「王様を差し置いて他の人間や神に願いごとをするものはだれであれ、ライオンの洞窟に投げ込まれる」という禁令を王様に発布させました。そして、ダニエルが神様に祈りを捧げる姿を見つくと、禁令を無視したとライオンの洞窟に入れられてしまいました。王様はとても心配していましたが、神様を信頼していたダニエルは神さまから守られ、なんの危害も受けることはありませんでした。